

【一般社団法人高槻青年会議所 2021年度スローガン】

パラダイムシフト

解釈を変えミッションに生きる

「主体変容」

人は困難や問題が起こったとき何かのせいになくなります。

周りや環境を変えようと思っても何も変わらない。まずは自分を変えることで、初めて周りも変わります。

自ら変化に挑み、自らの行動を変えることで成長と成果を求め、共に歩んで参りましょう。

【はじめに】

青年会議所の最大の特性は年齢制限にあると考えます。20歳から40歳までの青年で組織は構成され、40歳を超えると現役を退かなくてはなりません。限られた時間だからこそ、単年度制度が設けられ、全ての任期は1年に限られると考えます。

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし日本の運動は始まりました。まちづくり団体として、より良い社会を目指し社会貢献することを目的に組織された団体であります。

会員が1年ごとに様々な役職を経験する中で豊富な実践経験を積み、その自己修練の成果を個々の活動に活かす、といった特性を持った団体は他に例を見ません。だからこそ私は、会員自身が個の成長・個の豊かさを追求していくことこそが、青年会議所活動の意義であると考えます。

【事実はひとつ 解釈は無数にある】

新型コロナウイルスを起因とするパンデミックは、人類のあらゆる尊厳を脅かし、世界規模で社会的、経済的、そして政治的危機を引き起こしながら、依然として私たちの生活に甚大な影響を与えています。

高槻青年会議所もまた、その活動に大きな影響を受け、2020年度は年当初予定していた多くの事業実施が叶わず、会員への機会の提供減は免れませんでした。

私たちにはコントロールできることと、コントロールできないことがあります。今はコントロールできることにいかに集中するかが問われています。コントロールできないことには適応していくしかありません。このコロナ禍をネガティブに捉えるのではなく、この状況下からだからこそ新たな発展のチャンスを見つけること。つまり、見方、考え方を変え「パラダイムシフト」することが大切です。

コロナ禍で発生した事実は変えられませんが、その解釈は無数にあり、自分で変えられます。だからこそ、私たちはまちづくり団体として先頭に立ち、まちを想い、利他で物事を考えられる志を持つことが大切です。「誰の

ために、何のために、なぜ運動を行うのかというミッション」に立ち返ることで。誰よりも誠実な態度でこの困難に向き合い、今だからこそ得られる成長と成果を掴むよう取り組んで参ります。

【個々の成長と一枚岩の組織づくり】

理事役職の立候補者を増やしたい。自らの意思で高槻青年会議所の理事職に就き、自己成長を叶えたい、組織をより良いものにしていきたいと願い、主体的に動き、周りに働きかけ、実行していくメンバーを増やしたい。このようなメンバーが集う組織に私はワクワク感を抱き、魅力を感じます。

いいチームにはその根幹に、互いを尊重する心、感謝の気持ちがあります。JC運動は1人でするものでなく、チームでやります。人は一人では育ちません。人と競いあうことにエネルギーを使うより、力を合わせてお互いに助けあっていこうが人は育ち、組織は強くなります。会員個々が発信力、傾聴力、多様性を高めることで、チームで働く力を強め、自立した相互依存の関係性を持つ一枚岩の組織を構築して参ります。

【青少年育成と共に家庭教育の支援】

現在、日本の教育は日本の社会の中で生き抜くことを前提とされています。日本にとどまることなく世界化していかなければならないという危機感を持たない限り、教育レベルの世界の中での相対的な低下とともに、国民レベルの低下もつながります。答えがある時代の教育から、答えのない時代の教育への変化が必要なのです。

また、少子高齢化や核家族化の進行に伴い、子どもを取り巻く環境は大きく変化し続けています。この変化により子どもだけでなく、大人自身も地域の中で様々な人に関わったり触れ合ったりする機会が減少しています。それとともに、家庭が孤立化し、子育てを援助する大人や子育て・教育の相談相手が減少するなど、しつけや教育について不安を持つ親が増えてきています。

地域の中で、子育てや教育の支援ができる機会を提供していくことは重要なことであり、次世代を担う青少年が健やかに成長できるよう、子どもと大人の双方支援に努めて参ります。

【ポストコロナ時代へ視座を変える】

新型コロナウイルスによる環境変化に伴い、社会は大きく分けて3つのフェーズで進行します。まずは、緊急事態宣言発令の下、社会は「VSコロナ」フェーズに突入し、昨日までの日常が失われ、経済活動が急減速し、誰もが不安を抱きました。緊急事態宣言解除後は「WITHコロナ」フェーズとして、今までの価値観が変容し、新しい生活様式を導入する中で経済活動が再開しました。そして、今後ワクチン開発や集団免疫獲得等により収束を迎えられた場合、待ち構えているフェーズは「ポストコロナ」です。

ポストコロナ時代では、コロナ対策のために多くの企業がデジタル化を加速させることで、これまでの情報社会から、新たな「Society5.0」の社会が早期に訪れます。我々、青年経済人が捉えるべき視点はこのポストコロ

ナ時代を生き抜くための新たな価値観・行動により、経済を再成長させていくことです。まずは数年先を見据え、調査研究を行うことで情報を共有し、新たな時代を生き抜くための知恵を学び続ける必要があります。

【地域とのつながり】

1966年に「明るい豊かな社会」の実現に向けて歩みを始めた高槻青年会議所は、2022年に創立55周年を迎えます。また同年には、この高槻・島本の地で初めての開催となる近畿地区大会高槻大会が決定しました。近畿地区内にある94LOMの会員がこの地に集結する。高槻・島本のまちの魅力をPRするにあたり絶好の機会であります。

この機会を最良のものにするためにも、行政や地域に多数存在する他団体、これまで高槻青年会議所を支えてくださった先輩諸兄姉との交流と連携を強化していくことが必要です。我々は2022年に向けて、地域とのさらなるつながりを求め、2021年度より近畿地区大会準備室を設置し、準備を進めて参ります。

【地域と連携したまちづくり】

公職選挙法による選挙権年齢の一部改正により、若年層がまちづくりに参画できる機会が創出されましたが、まだまだ若者世代(10～30代)の投票率が低いゆえに、民主主義のあるべき姿という観点から問題意識を持っています。1人ひとりが主権者となり国や地域に関わり、社会の意思決定に当事者意識と責任を持つ必要があります。

自然災害に見舞われやすい日本において、災害から生命・財産を守るためには、国や地方公共団体が行う「公助」や、国民1人ひとりの自覚に根ざした「自助」の精神が重要なことはいまでもありません。その上で、我々がすべきことは行政や社会福祉協議会との連携を強化し、高齢者に偏りを見せるボランティアの現状を改善し、我々同世代の住民にも参加を募った防災活動を行い、地域防災力を高めていくことが必要です。

SDGsにおいても同様で、明るい豊かな高槻・島本の実現に向けて、若者といわれる我々の同世代とともに地域の課題と向き合い、対応していかなければまちの未来はありません。我々が展開する運動にSDGsが掲げる17個のゴール目標を設定し、2021年度もSDGs運動を推進して参ります。

【対外へ向けた発信力の強化と仕組みづくり】

我々が運動展開する高槻・島本の地で、これまで展開してきた地域運動がどれだけの人々に伝わっているのでしょうか。2020年度の運動を検証すると、魅力ある事業や、コロナウイルス対策支援事業、九州豪雨災害への支援物資事業など、誰のために、何のために、なぜ事業運動を行うのかというミッションが確立しているものの伝播力は凄まじい勢いをもちます。このような運動の積み重ねと事前事後の広報発信の積み重ねが我々の存在意義を高めることから、運動・情報発信の仕組みづくりに努めて参ります。

【会員拡大について】

青年会議所は女性活躍社会の実現を謳いながら、女性会員が極端に少ない現状があり、高槻青年会議所も例外ではありません。また、次世代の地域の担い手を育成する学び舎であるにも関わらず、若年層会員が少ないという課題も持っています。

職種・人種・役職に囚われない幅広い人材が活躍できる青年会議所になっていくためにも、質的な環境整備を整えていくとともに女性会員、若年層会員の拡大に注力して参ります。

【50周年から55周年に向けて】

高槻青年会議所は2021年に創立54年目を迎えます。活力ある高槻・島本を今後も維持し、より明るい豊かなまちに変えていくためには、若い世代における定住促進への取り組みをさらに強化する必要があり、50周年に掲げた4つの軸、「共育」「地域リーダーの育成」「安心安全への取り組み」「魅力あるまちづくり」を継続して事業展開していく必要があります。この提言書があるように、単年度制でありながらも組織では年を跨いで連動していくことが大切です。

高槻青年会議所の長きに渡る先輩諸兄姉が築きあげられた功績に感謝をするとともに、未来を担う意志を強く示し、その歩みを進めて参ります。

【おわりに】

新型コロナウイルス感染拡大は社会全体に大きな変化をもたらしました。WITHコロナ時代を生きる今、我々は個々が新しい生活様式を実践するのみならず、今回得られた経験をもとに、新しい社会づくりへパラダイムシフトしていく必要があります。

コロナウイルス収束後に到来するポストコロナ時代は、加速を進めたデジタル化の影響を受け、社会やビジネスの在り方、人々の価値観に至るまで変化を遂げていきます。そうしたポストコロナ時代をしっかり見据えてJC運動を展開していくことも、WITHコロナ時代には求められます。

だからこそ我々は、まちづくり団体として先頭に立ち、まちを想い、利他で物事を捉え、誰のために、何のために、なぜ運動を行うのかというミッションに生き、力を合わせてお互いに助けあって、一枚岩の組織を構築して参りましょう。

【一般社団法人高槻青年会議所 2021年度スローガン】

パラダイムシフト

解釈を変えミッションに生きる

2021年度 基本方針

- 1 主体変容からなる成長機会の追求
- 2 ポストコロナ時代へ視座を変える
- 3 行政、地域団体との連携機会の促進
- 4 JC運動の発信力強化と広報の仕組みづくり
- 5 55周年、近畿地区大会高槻大会へつなぐ一枚岩の組織づくり

2021年度 運営方針

1. 会議について

■正副理事長会議

上程議案を検討、精査し理事会の円滑な運営を促す。

構成メンバーは以下の通りとする。

理事長・副理事長・専務理事

※常任理事は会議に出席する。

■財政規則審査会議

理事会より委嘱された各上程議案に対し財政局が、財政面・規則面において厳正に審査する。

審査においては、諸規則を厳守する。

構成メンバーは以下の通りとする。

専務理事・常任理事（総務室）・財政局長・委員長

2. 理事組織について

■副理事長 4名(理事)

執行部の立場に立ち、事業目的達成のための上程議案の内容を精査し、各担当委員会の円滑な運営に努める。

■専務理事 1名(理事)

執行部の立場に立ち、事業目的達成のための上程議案の内容を精査する。

総務室・事務局と連携し、高槻JCの円滑な運営に努める。

外部、他LOMとの窓口を担う。

■新入会員審査室 室長 1名(副理事長兼務)

入会申込書を受け取り、書類審査・面接審査を行う。

理事会より委嘱された、入会申込者の資格を厳正に審査する。審査においては、諸規則を厳守する。

室長以外のメンバーは各委員会より重複とする。

■拡大会議室 室長 1名(副理事長兼務)

会員拡大の数値目標に向けて指揮をとり、各委員会との連携を図る。

室員は各委員会の副委員長とする。

■近畿地区大会準備室 1名(理事)

近畿地区大会高槻大会の開催に向けて、行政や地域他団体、シニア会員との連携を図る。

■常任理事 5名(理事)

担当委員会に対しての事業目的達成のための助言をし、各担当委員会の円滑な運営・統括をする。

■事務局長 1名(常任理事兼務)

専務理事を補佐し、セクレタリーを統括する。高槻JCの円滑な運営に努め、各会議の設営を行う。

■委員長 6名(理事)

委員会の円滑な運営に努め、各事業への積極的参加をメンバーに促す。

■財政局長 1名(理事)

理事会より委嘱された各上程議案に対し、財政面・規則面において厳正に審査する。

審査においては諸規則を厳守する。